中友会

［発行所］
中　友　会
港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL　03-3504-8705
FAX　03-3504-8706

会則第2条
- 親　睦
- 互　助
- 生涯学習

http://chuyu-kai.org/

中友会ホームページは、上記アドレスまたは、「中友会」で検索してください。

会報発行一〇〇号達成を祝う

会長　宇津木　順一

会報一〇〇号発行おめでとうございます。会報が一〇〇号に達したことを皆さんで喜びたいと存じます。

一〇〇号発行を記念して、編集委員会の企画で会員の皆様からの近況を募集したところ、多くの記事を寄せて戴き、紙面を拡大して発行することが出来ました。それぞれの記事に、退職後の生活を本当に大事にされて、様々な分野で活躍され、努力されている様子が記されており、私たちの会の人材の豊かさを改めて実感しています。お互いにそれぞれの生き方に学びながら、充実した日々にしたいと思います。

会報一〇〇号までの道のりをたどってみますと、創刊号は、昭和57年5月に発行されています。題字「中友会」は松本和三郎先生が揮毫しました。中友会が結成されたのが昭和42年ですから、中友会誕生十五周年の年に創刊されたことになります。創刊号の「会報発行に至るまで」（上田利男先生）の記事には、「会員各位のご協力により、多年念願としていた会報、創刊号を発行することになった。この会報の装丁や形式にも種々考慮したところですが、会員のご助言やご協力によりますます有意義な、しかも権威あるものとしたいと思っています。年間3回位は発行したいと思っています」と記されています。創刊の熱意とご苦労、意気込みが伝わってきます。

中友会結成、二〇周年、三〇周年、四〇周年には記念号が発行されています。一〇周年には、まだ会報が創刊されていませんでしたので、二〇周年が最初の記念号になっています。

二〇周年記念号では、「会務の運営、事務的処理については、本会結成の構想に随い、入会後3年以内の各期から幹事を出し、幹事長を中心としてその掌にあたり、中友会の運営は旧新相和した美しい姿が展開されているのである。伝統を背景に常に若き活力を注入して会を老化させない本会の特色はこの先も存続させたいものである」（結成二十年の回顧　松本和三郎先生）と運営体制が本会の活力の源泉になっていると記しています。

創立三〇周年記念特集号は、平成10年1月に発行されました。この中で、会報について、「私どもの時は、会員の皆さんとの情報交換の場はありませんでした。総会の通知状と同封の返信用のはがき（住所・総会の出欠・旅行会への参加希望の有無・懇親会の出欠希望）での情報交換でした。何とか連絡方法並びに、意見発表の場を作りたいと編集委員会ができました。会報が出来てみると、年3回の宛名書きに困りました」（鎌田高保先生）と記されており、会報発行の喜びとともに、会員への送付に苦労した様子が分かります。

平成20年4月には中友会創立四〇周年記念特集号が発行され、この中に、「中友会にとって、会員の学校支援活動と会の活動への参加の調整を図り会の活性化を図ることが喫緊の課題となりました。その課題を解決し、将来に向けて発展し続ける中友会の在り方を探らなくてはなりません」（中友会　不惑の年に　塚越紀久男先生）と記されておりますが、このことが、今、中友会の現実の課題として解決が迫られています。

「〝会報〟は語る」（会報72号鴻田好通先生）では、「親睦と互助、生涯学習の充実を目指す中友会では、会員相互の交流は重要である」「（会員の窓欄を例に）間接的ではあるが、交流の場として、またそこはかとなく親近感を感じあえる場としての意義がある。会員の絆とはこうした事の積み重ねの中に結ばれていくのではないだろうか」と、会員相互の心を通わせる会報の役割について示唆を戴いています。

さて、来年、平成29年11月には、中友会結成五〇周年を迎えます。会員相互の絆を結び、会の歩みを記録し残していく会報の意義役割について共通理解を深めながら、五〇周年という節目に、これからの中友会への大きな展望が開かれる記念号発行を目指し、中友会発展の新たなスタートにしたいと思います。